

氏名	中村 昭宏	派遣国	インドネシア共和国
派遣期間	平成29年4月～令和2年3月	派遣された在外施設	バンドン日本人学校
在外施設での分掌（学年や主な分掌など） 小学部4・5・6年→中学部→中学部 研究主任		現在の勤務校	柏崎市立田尻小学校

派遣された在外教育施設の様子

- 幼稚部から中学部までの24名が在籍しており、文部科学省派遣（7名）、現地採用（1名）、現地スタッフ複数名で教育活動を行っている。（令和元年度当時）
- 「すべては子どもたちのために」をスローガンに、一人ひとりに対応したきめ細やかな指導を心掛けている。放課後には希望者を対象にした学習や日本語のサポートが必要な児童生徒に対する特別指導、中学部の希望者を対象にした受験指導を行うなど、個に応じた教育に力を入れている。
- 日本の伝統文化の理解を目的に、こいのぼり集会、七夕集会、夏祭り、もちつき大会等の行事を実施するほか、同国の日本人学校の児童生徒に声を掛けて行う1泊2日のサマースクールを実施している。他にも保護者や日本人会の方も参加する運動会、伝統楽器「アングロン」を演奏する学習発表会などがある。
- 現地理解ならびに国際理解教育にも力を入れている。小学3年からはインドネシア学習を行い、英会話は全学年で実施している。また、30年以上続けてきている現地校との交流も定期的に行われている。（右写真は、交流会時の茶道体験）



派遣国の様子（文化や風習など）

- 「花の町バンドン」首都ジャカルタから南東に直線距離で約120km、バンドンは人口200万人を超える西ジャワ州の州都である。熱帯モンスーン気候に属しながら、周囲を山々に囲まれた標高およそ700mの高原地帯にあるため、とても過ごしやすい。一年中、色とりどりの花が咲き、緑と太陽の光に溢れた美しい町である。ドリアン、パパイヤ、パイナップル、ドラゴンフルーツ、ランブータンなど、ここでとれる果物は美味しく、食卓をにぎやかにしてくれる。
- インドネシアは、世界最大のムスリム（イスラム教徒）を有する国である。多民族、多言語、イスラム、350年間のオランダの植民地支配等により、風習慣習は多様化・複雑化している。ムスリムの方の1日5回のお祈りや断食、ラマダン（断食明け大祭）、犠牲祭などの日本の文化との違いは大変勉強になった。（右写真は、校舎）



派遣国での生活の様子

- 学校は少人数であり、我が子の成長も近くで感じることができ、貴重な体験となった。学校行事も保護者や日本人会の協力のもと、「バンドンファミリー」という言葉で表現されるように全員で教育活動を盛り上げるあの貴重な時間は何事にも代えがたい時間であった。
- 派遣期間中の3年間でも高層ビルが建てられたり、高速道路が開通したり急激な経済発展を遂げているインドネシアであった。日本の食材等も手に入りやすかった。しかし、日本のものは高額であり、都市部は慢性的な渋滞が悩みの1つであった。